



# ハーモニー



## 雨の中の1年集団宿泊教室

6/5(日)～6/6(月)、阿蘇  
青少年交流の家で行いまし

た。コロナ禍で過去2年間は日帰りの集団活動教室に代えてい  
ましたが、本校のコロナの状況が落ち着いていましたので、以下記述の  
3つの目的を達成するために1日宿泊にしました。



(ミニバレー説明)

- ①集団での様々な活動を通して、互いの親睦を深め、お互いのことをもっと知ろう。
- ②集団生活を通して、規則正しい生活態度やマナーを身につけ、集団行動力を高めよう。
- ③自然の中での活動を通して、阿蘇の自然を愛する心や地域に対する理解を深めよう。

2日間の天気は雨でしたので野外での活動は出来なくなりました。しかし、交流の家の  
スタッフや先生方の臨機応変な対応で1日目午前中に予定していた杵島登山がミニバレー  
大会に変わったり、午後の野外オリエンテーリングを建物内オリエンテーリングに代えて  
活動を行いました。

子ども達も説明をよく聞いて行動しました。班長さんが活動前に  
話していた「**団結力や責任感を身につけたい**」ということが、班長さん  
を中心に**作戦を立て、意見を出し合いながら行動する**中で達成出  
来たのではないかと思います。友達同士で



(ミニバレー試合)

活動する大切さを改めて感じました。  
夕食はパーティションで区切った場所で  
黙食でしたが、視線で会話しながら食べて  
いました。その後、1組、2組に分かれて  
「**自分を語る会**」を行いました。学校での学活  
の時間でも行っていますが、19:00～21:30  
で休憩を取りながら行いました。



(夕飯のつどい)



(入所式リレー)

一生懸命自分を語った人も素敵でしたが、  
その人に一生懸命自分の思いを重ねて意見  
発表してくれた人も素敵でした。1組、2組とも良いクラスになると実感しました。



(夕食風景)



(自分を語る会返し)

2日目はクラフト活動(竹とんぼづくり)を行いました。ナイフ  
を使い各自熱心に仕上げていました。きれいに作るには技術が必要  
ですが、得意な人、苦手な人と様々でした。しかし、嬉しかった  
のはお互いに尋ねたり、教え合いができていたところです。こ  
こでも班のチームワークの良さが光っていました。



(クラフト活動)

1泊2日の中で大きな成長を見せた1年生でした。今後の活躍が期待されます。

6月は「心のきずなを深める月間」です。人権作文を紹介します



※裏面に載せています。

## 「みんなのヒーロー」

内閣総理大臣賞

宮城県・仙台市立仙台青陵中等教育学校三年

松山 陽奈(まつやま はるな)さん

困っている人への「手伝います」という言葉。そして優しく見守ること。この二つの言葉と行動を心掛けることこそが、優しい社会づくりへの第一歩だと思う。勇気がなくその言葉が出なかった私にそう思うきっかけを与えてくれたのはバスで見かけたおじさんだった。私は毎朝バスに乗って通学している。そのバスは通勤ラッシュの時間帯で平日朝から晩まで働いてお疲れの様子のサラリーマンが多く乗っている。それが理由なのか、車内の雰囲気はどんよりしていて少し怖いくらいに感じるほどだった。

そのバスがさらに怖さを感じさせる日が週に二日ある。火曜日と木曜日だ。その二日だけ手押し車と共に乗車するおばあさんがいる。手押し車を持っているだけでそれ以外は他のお年寄りとは何も変わらないはずなのに……。バス車内から遠目にバス停に並ぶそのおばあさんの姿を確認すると乗客の何人かが分かりやすいため息をつき、その瞬間雑音にあふれていた車内が凍りついたように静かになる。そのおばあさんは何も悪くない。ただ手押し車を持っているから乗るときに他の人よりも少し時間がかかるだけだ。「手伝います」と誰かが声を掛ければすぐ解決するはずなのに、私も含めて誰もその一言が出てこない。なぜなら、乗客何人かが「乗らないでくれ」という無言の圧力を放つからだ。ため息、舌打ち、コツコツと靴で床を踏みならす音全て意図的に聞こえるように出していて、極めつけは「関わりたくない」と訴える視線。なぜそのような態度をとる人がいるか理由は容易に想像できる。「なんでこんなラッシュの時間帯に乗るのか。こっちは仕事があつて急いでいるんだ。」という自分勝手な考えからである。おばあさんがいつどこに行こうがそれは自由で他の人に制約される理由はない。「手伝います」と声を掛けようとしている人も中にはいるはずだが、無言の圧力に負けてしまっていた。そして乗客全員でおばあさんに圧をかけるような状況をつくりおばあさんはいつからか小声で「すみません」と言いながらバスに乗るようになっていた。

ある日、そんな暗い状況の中ヒーローが現れた。ヒーローはおじさんだった。おじさんは「今日火曜日かあ」といつものように暗い気持ちで座っていた私の隣の席についた。おばあさんの乗るバス停に近づくにつれ聞こえてくるため息を聞いて「みなさんお疲れですね。」と私に話しかけ、おばあさんがバスに乗ろうとすると「おはようございます。手伝いますよ。」と声を掛けながら手押し車を軽々持ち上げて席を譲った。おばあさんは最初おじさんの行動に呆気に取られていたが、すぐに満面の笑みでお礼を言っていた。そんなおじさんの行動を間近で見た感想は「おじさんは強い。」だった。無言の圧力を物ともせず、私がなかなかできなかったことをスマートにやってのけ、おばあさんを笑顔にしたおじさんはヒーローという言葉がピッタリだった。私はそんなおじさんの行動に憧れて自分も自ら行動できるようになりたいと思った。

その後おじさんがバスに乗ってくることはもうなかった。が、私はちゃんと行動すると決めていた。一部の乗客のイライラは気づかないフリをした。バスのドアが拓くときとても緊張しておじさんみたいにできるか不安だった。でもやるしかないと自分に言い聞かせ、「手伝います」と声を掛けた。手押し車を乗せおばあさんに席を譲った、その後のおばあさんの笑顔とお礼は今でも心に残っている。おじさんの行動はバスに乗る人たちを変えた。次の火曜日「よし」と意気込んでいたら、前に座っていた高校生に先を越されてしまった。その後手押し車をバスに乗せる担当とおばあさんを支えてバスに乗せる担当という役割分担が自然とできていった。さらにおばあさんが下車する際に運転手さんに「ありがとう」とお礼をするのでつられて他の人たちも運転手さんにお礼をするようになっていった。

おじさんは乗客全員に勇気を持って行動する強さを教えてくれた。おじさんに救われたおばあさんは「ありがとう」と言うことの大切さを教えてくれた。この出来事からバス車内は優しい思いやりがあふれる暖かい雰囲気になっていった。

私たちはできない事があるのが当たり前。でも、その人にしかできないことだってある。そして全ての人が自分らしく生きる権利を持っている。だから、自分が輝ける社会を自らつくっていく必要がある。そのためにはお互いの短所を補い合い助け合うこと、優しく見守ること。この二つが一番大切だと思う。

こうした思いやりを広げていくことで、多くの人を笑顔にすることが必ずできる。一度だけ現れてバスに乗る全員を笑顔にしたおじさんは、間違いなくみんなのヒーローだ。おじさんに偶然、出会えたことの感謝を忘れず、勇気が出ないときはおじさんのことを思い出して「強く」生きていきたい。